

平成29年度 事業報告

旭福祉センター・第二旭福祉センター

■ 平成29年度の重点目標に対する事業経過報告

今年度は生活介護事業の人員の配置転換、並びに作業部門の一部再編を行った。重点課題としては、「より丁寧な声かけ」と「作業面の効率化と作業スキルの向上」を最重点課題と位置づけ、全職員で取り組むと同時に、中期的な展望での製販計画を立案、計画達成を目標に実践に努め、全作業班合算の売上計画は達成できた。その他にも以下に掲げる事項を重点目標とし、実践に努めた。

1. 利用者のニーズに合わせた支援の提供

29年3月に第二作業所(通称:竹工)の生活介護とB型の利用者及び職員配置の再編を行ったことに伴い、年度当初は多少の戸惑いも見られたが、作業班の体制も落ち着き、介護班も音楽療法などの生活介護カリキュラムを更に充実させ、利用者・家族からも一定の評価を得ることができた。それ以外の事業部門においては利用者の個別ニーズを作業・生活両面からの視点で的確に把握し、ニーズに合った短期目標・長期目標を支援計画に掲げ利用者支援の向上を図った。支援実践面における目標である「より丁寧な声かけ」の実践では、人権擁護委員会の主催によるグループディスカッション・利用者への声かけに関する聞き取り調査(H29.12月実施 児玉監事監修)等の活動により職員の意識も向上し、効果的な活動ができた。来年度以降も充実した支援体制を確立させるべく研鑽を重ねたい。

2. 人事管理制度の円滑な遂行

人事考課制度を職員の資質向上に繋げることに主眼を置き、「新人事制度の円滑な遂行」・「考課者の基準の統一」の2つを目標に掲げ、人事考課を実施した。今後更に考課者の評価基準の統一と徹底を図っていきたい。

3. 職場環境の改善

利用者送迎において市営バス等の時刻変更に伴い早出出勤が常態化している実態が判明、送迎勤務者を雇用し、現状の是正を行った。

4. 職場環境の充実

今年度の職員一人あたりの年次有給休暇取得日数は、平均9.65日(年間取得率65.9%)となった。ただ、リフレッシュ休暇(29年度現在 年4日が目標)の取得率が78.7%と目標に到達できなかった。また、チューター制度では9組のペア体制をとり、チューターになる職員に対する研修も行い、業務内容の悩みやその他の疑問解消などに効果が見られた。

5. 支援委員会・業務改善委員会の円滑な運営を実施

① 支援委員会

- 〔生活委員会〕入所利用者の居室環境の改善及び支援体制の整備策として、今年度は居室環境に関わるチェック表などの見直しや、チェックを行う職員の支援体制の見直しを重点的に行ない、より良い環境づくりに努めた。
- 〔地域委員会〕各行事の円滑な運営を目標に早目の計画と準備に取り組んだ。(各種バザー・マルシェ等への参加24件：うち新規出店 緑ヶ丘あさ市など2件)そのほか、広報活動と売上の向上に努めた。また、利用者の余暇・外出計画(買い物外出2回・利用者同士の外出(毎月1回程度)・宿泊キャンプ・新年会・忘年会・日帰り旅行など)を企画・実施し、余暇の充実を図った
- 〔作業委員会〕全車両(22台)にドライブレコーダーを取り付け、安全運転講習などを職員に実施、安全な運転技術の向上に務めた。利用者の毎月の工賃及び、12月と3月の賞与について見直しを行った。また、新人育成シートの運用を推進、炊事班(味噌作業)を除く全ての作業班でシート運用を統括、育成面において効果を上げた。
- 〔職場改善委員会〕朝礼や職員会議での啓発活動(挨拶・服装・利用者の呼称についてなど)を実施、職場内の意識向上を図った。また、職員行動チェックリストを定期的に活用し、部下の育成とコミュニケーションの向上を図った。
- 〔人権擁護委員会〕研修会3回、グループディスカッション1回、虐待防止チェックリストの活用2回を開催し、虐待行為の防止並びに意識向上の機会を作った。
- 〔地域貢献委員会〕昨年度は4回の会議を開催した。町内会・近隣住民との関係強化を目標として掲げ、3班の班会を今年度より当センター内で行うことになった。今後、10班の班会開催も呼びかける予定である。全職員へ挨拶や活発なコミュニケーションの周知を図るとともに、地域行事には積極的に利用者と職員とが参加し交流を深めた。新しい試みとして、餅つき大会では隣接する7家族、1企業に参加を呼びかけ、平日の開催にもかかわらず4家族、6名の地域の方々に参加していただいた。
- 〔活性化委員会〕朝礼の方法を検討し、一部変更を行った。また、管理職会議での決議内容や検討事項を各部署に円滑に伝達することに努め、情報共有力の向上とチーム意識の向上に努めた。

② 業務改善委員会

- 〔センターふれあいバザー実行委員会〕11月19日に実施(52回目の開催)天候にも恵まれ1,200名近くのお客様に来園していただいた。尚、来年度からは単独開催の11月バザーに加え、4月の三施設合同バザーも当事業所敷地内での開催に変更となるため、実行委員会を早期に立ち上げ万全の体制で臨みたい。
- 〔入所・グループホーム旅行委員会、行事B委員会〕今年度は入所者28名が3チームに分かれ1泊2日の宿泊旅行(長崎、宮崎)を実施。利用者の要望を積極的に取り入れ、好評であった。また、通所利用者も含めた日帰り旅行は4日間、14チームに分かれて県内各所を観光、こちらも利用者の要望を取り入れ、大変好評であった。

6. 各作業部門の状況

作業の効率化と職員の作業スキル向上

作業の効率化と職員の作業スキル向上(3～5年の計画 2年目)を作業部門全体の重点課題として掲げ、作業班ごとに育成シートによるスキル向上に取り組むと同時に、中期的な展望での製販計画に沿った計画の達成を目標に掲げ、計画的な実践に努めた。尚、第二作業所ではこれまで建物設備の改修(重度利用者用のドア設置・簡易シャワーの設置等)を行ってきたが、現場の実情に合わせた設備改修がこれ以上は困難であると判断、第二作業所で行ってきた生活介護事業を30年6月より旭センター本体敷地内に移動し、事業を継続する予定である。

蔬菜班・・・売上計画は達成。作付面積を減らしたことで野菜管理・環境整備は少しずつ充実してきている。重点目標である新人職員の育成については、まだまだ改善すべき課題が多い。来期は、利用者支援の充実と地域の方との交流にも力を入れていく。

売上目標 4,170,000 実績 4,226,182 101.3%

菓子班・・・売上計画は未達成に終わる。SNS を活用した広報・宣伝の定期的な更新は出来たが、課題でもあった販売体制の見直しや商品開発を計画的に行う事が出来なかったことが、未達の大きな要因として挙げられる。今後は全体のスキルアップ向上の体制づくりと、課題として残った販売促進に向けた取り組みを行っていく。

売上目標 17,200,000 実績 16,179,086 94.1%

カフェNODOKA・・・売上計画を大幅に上回り達成する。広報・宣伝に少しずつ取り組めたことや接客におけるスキル向上が、常連客を増やすことが出来た要因だと思われる。次年度も売上達成を目標に宣伝・新メニュー開発に力を入れていく。

売上目標 5,750,000 実績 6,772,593 117.8%

メンテナンス班・・・日常清掃・定期清掃は安定して行えた。新規物件が増えたこともあり、売上計画を達成することが出来た。しかし、育成シートを活用した人材育成が計画通りには実施出来なかった。来期は早期の計画立案・実施を行い、計画達成を目指す。

売上目標 20,000,000 実績 21,055,636 105.3%

味噌班・・・積極的にバザーやイベント等で販売し、また社内販売に関しても声掛けを行った結果、売上計画を達成する事が出来た。来期は広報・宣伝を活かして販路拡大に繋げ、安定した生産体制が確立できるよう早めの計画を立てていく。

売上目標 1,320,000 実績 1,332,730 101.0%

竹工班(軽作業)・・・以前より課題として挙げられていた利用者の安全確保や設備等の充実については、徐々にだが改善・工夫がなされてきた。生産面に於いては安定した受注量を保持

できたが、今後は生活介護メンバーで取り組むことが可能な作業(工程を含む)の選別等が必要である。

売上目標 4,100,000 実績 4,319,601 105.4%

陶芸班・・・売上に関しては未達に終わる。今期はお客様ニーズに合わせ、器の形・釉薬の色などを改良、良い作品ができたと思う。商品開発に関しては、催し物などの見学を行ったことで創作意欲が高まり、製作・販売に繋げることが出来た。特に置物などは、催事ごとに作ることで今後更に期待がもてる。今後は各作業班への相談、協力を得ながら販路拡大・新商品の開発を行っていく。

売上目標 1,150,000 実績 921,709 80.1%

平成 29 年度主要部門売上一覧

作業班	売上目標額	達成額	達成率
NODOKA	5,750,000	6,772,000	117.8%
楓 (菓子班)	17,200,000	16,179,000	94.1%
竹 工	4,100,000	4,319,000	105.4%
蔬 菜	4,170,000	4,226,000	101.3%
陶 芸	1,150,000	921,000	80.1%
メンテナンス	20,000,000	21,055,000	105.3%
味 噌	1,320,000	1,332,000	101%
合 計	53,690,000	54,804,000	102.1%

(※達成額 下三桁は切り捨て・主要な部門のみの集計データ)

7. 就労移行に関する情報収集・強化

28年1月より就労移行を強化し、企業・職安・就職関連機関等を定期的に訪問、今年度は1名の利用者の就労を目標に掲げていたが、対象利用者の諸事情により達成は叶わず。翌30年度内に再度達成を目指す。

8. グループホームの充実

グループホームの充実を目的として、今年度も世話人との情報交換会(年2回)を実施した。また、7つのグループホームに所属する利用者(25名)と各担当職員を交え、グループホームの決まり事や要望等を話し合う意見交換会(年2回)を実施した。

9. 家族との連携強化(家族代表者委員会の活用)

家族代表者委員会では平成29年度 3回に渡って委員会を開催した。議題としては、29年度の三施設合同及び施設主催バザー(春、秋の2回)についての反省、家族会の役員のメンバー交代についての検討、30年度以降の家族ボランティアメンバー選定、障害者施策の情報提供などである。その他、施設の行事報告等を行い情報の共有に努めた。また、毎年8月の家族総会、1月の新年会を行い、親睦を図った。

10. 職員研修の充実

施設内において年間27回(新人・中堅・人権擁護・メンテナンス・チューター研修など)の研修を実施、職員の障害に関する知識と支援技術の向上及び、一般常識的な知識の向上に重点を置いた研修を行った。また、外部研修についても協会主催の研修など、計58回の様々な研修・講演会に参加、資質の向上に努めた。

11. 各種マニュアルの作成

各種マニュアル(事故防止、健康管理、各種作業、環境整備等)を修正し、マニュアル集を整備した。引き続き整備を行う予定である。

12. 福祉教育

29年度は、下記の実習生・研修生等を受け入れ、福祉教育の充実に寄与した。

- | | |
|--------------|--------------------|
| ① 保育士実習 | 11名 (3校) |
| ② 特別支援学校現場実習 | 8名 (3校) |
| ③ 福祉学習受け入れ | 92名 (1校) ※川上小学校4年生 |